

高1 広島研修で平和について考えたこと

【『被害者』、として、『加害者』としての立場】

1年

『唯一の被爆国の日本』。その類いのフレーズは幾度となく目にしたことも、耳にしたこともあったが、実際に広島へ行き、原爆がもたらした被害を直接目にするのは今回が初めてであった。今回、3か所の平和学習スポットを回ったが、特に印象的だったのは平和記念資料館である。決して大きく重いとは言い難いサイズの、たった1発の原子爆弾が、広島を壊滅させたこと、私たちと同じように毎日を過ごしていた人々の日常が一瞬で崩れたこと、生きたまま焼かれて亡くなった人々や放射線を大量に浴びて亡くなった人々だけでなく、後に原爆症を発症しなくなる人々もいたことなど、様々なことが展示を通して伝わってきた。それらの資料を見たときに私は2つのことを考えていた。1つめは原爆をはじめとする核兵器は許されないということ。これは多くの人々が感じるころだと思う。そしてもう1つは日本は当時他国にどのようなことをしてきたのだろうか、ということだ。当時の日本はアジア各国を植民地として支配し、同化政策や皇民化政策、虐殺などを数多くの地域で行ってきた。以前日本の支配下に置かれていた国の1つのシンガポールであらゆるところの歴史博物館や牢獄跡、戦争の資料館に行ったことがある。そこにあったのは今まで見えてこなかった『加害者』の立場にいた日本の姿だった。私たちの母国が他国にしてきたことを考え、その国で苦しんでいた人々の生活を思うと『原爆のおかげで戦争が終わった』という言葉は私たちと彼らとでは捉え方が大きく異なるということに気がつき、ハッとさせられた。

今回の研修では、第二次世界大戦から太平洋戦争終結までに至る『被害者』としての日本の姿を学んだ。だから今度は今までどのような国々にどのようなことをしてきたのか、という『加害者』としての日本の姿をさらに学んでいき、日本の過去の過ちを振り返り、そして忘れないようにしたい。